



# 現

在、多方面で活躍中の堀川さん。PTAの役員をしてる際に、「市の「地方創生事業」の一環として、市から「何か子どもたちのためになる新産業を…」との依頼を受けた堀川さんら数人で「パパプロジェクト」を立ち上げました。同時期、市内で開催された「山城サミット」に絡めて「パパプロe街佐野奉行所」も立ち上げ、試行錯誤する中で、佐野市で第三のご当地グルメとなっている「佐野黒から揚げ」の考案に至りました。

テストマーケティングイベントでは、3千人の方々の来場があり、ソース味から揚げが高評価で大成功に終わり「佐野黒から揚げ」誕生に一歩踏み出す力強い後押しにもなったそうです。

今では、佐野から揚げ協会も立ち上がり、現在は28店舗が佐野黒から揚げを取り扱っています。

佐野黒から揚げは、学校給食にも提供され、子どもたちもとても楽しみにして

## キラリ話題の人

えつろう  
**堀川 悦郎** さん

パパプロe街佐野奉行所代表  
佐野市小中学校PTA連絡協議会顧問  
社会教育委員  
とちぎネット利用アドバイザー



いるとのことでした。

また、学校では夏休みに自由研究のテーマとして調べる児童もいると、ほほ笑ましいお話です。

そして、堀川さんは更なるつながり作りを目指して、佐野松桜高校の生徒と「ソースおとめ」を共同開発しました。開発に携わった高校生たちと並々ならぬ苦労や努力を共にしてきた堀川さんは、一本でも多く、このソースが佐野市民に広がってくれることを願うばかりかと思えます。

常に地域や子どもたちと関わりながら、新しい産業はないかと模索する堀川さん。お子さんのために作ったキャラ弁の写真を見せてくださりながら、今後できたら佐野日本大学短期大学の栄養科とコラボして、佐野市の魅力となる新産業の食品開発に取り組んでいきたいと、優しく笑って話してくれました。

(市民記者 葛貫郁子)

## ようこそ 市長室からこんにちは！

今月は、本市にとって大変うれしいニュースが届きましたので、その報告をさせていただきます。

市内にあります、天明鑄物生産用具および製品について、文化財としての価値に鑑み、文化庁や栃木県教育委員会、栃木県立博物館の指導を受けながら、資料作成を行い、文化庁へ提出してりましたが、1月19日に文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、国の重要有形民俗文化財に指定するよう、文部科学大臣に答申されました。

佐野における鑄物生産の起源は、天慶年間(938~947)にさかのぼるとされており、梵鐘や茶の湯釜、農具、生活用品など幅広い製品を鑄造しており、この地域で造られた鑄物

製品は、「天明鑄物」の名で広く知られております。

この地域の伝統的な産業を理解する上で貴重であり、わが国における鑄物生産の変遷を考える上で重要であるとして、答申していただきました。本市が誇る天明鑄物が未永く継承されるよう行政として、産業と歴史文化の両面からしっかりと後押しを行ってまいります。

最後に1月1日に発生した能登地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。本市としても給水車の派遣や職員の派遣など、できる限りの支援をしていきます。市民の皆さまも日頃から災害に備えた準備をお願いいたします。



佐野市長  
金子 裕

詩を書くように、自分の思いを表現する  
**地元へ感謝 水彩画を寄贈**

昨年84回目を迎えた一水会（公募美術団体）において3回目の入選を果たした小竹昇さんのアトリエに案内されました。

小竹さんは幼少の頃より絵に興味を持ち、日本水彩画会委員故池澤嘉夫先生に師事し、日本水彩画会安足支部長を務めました。

作品を表現する中で異なる色を入れ込み、絵の魅力を最大限に引き出す技法は高い評価を得ており、詩を書くように、自分の思いを作品に表現することを目標としている今回の入賞作品（1,620cm×1,303cm）も、大好きな雪をテーマに表現された作品です。

出流原町の町会長を務めたこともあり、地元への感謝の気持ちを込め、昨年6月に竣工した出流原公民館に日本水彩画展に出品した「雪の朝」を寄贈されました。（市民記者 中里聖子）



①3回目の入選を果たした「降雪の朝」と小竹さん  
 ②出流原公民館に寄贈された「雪の朝」  
 ③アトリエの様子



効率的な消防活動が可能に！  
**災害用ドローン運用開始**

12月20日（水）、遠藤照明公園（栄公園）にて、災害用ドローンの運用開始式が行われました。

式典では、飯島消防長による運用開始宣言のもと、運航要員として市消防職員6人に胸章が授与され、運用開始に伴う宣誓がありました。運航要員6人は、全員が国家資格である二等無人航空機操縦者の資格を取得し、災害現場を想定した操縦特別訓練（10時間以上）を修了しています。

災害用ドローンの導入により、消防隊員が立ち入り困難な場所や広範囲にわたる大規模災害時に、上空から俯瞰的に情報収集することで、効果的かつ効率的な消防活動につながることを期待されます。



5年ぶりの開催！  
**消防出初式が行われました**

1月14日（日）、佐野駅入口交差点を中心に、県道桐生・岩舟線で消防出初式が行われました。

新春恒例の行事として行われていましたが、近年は中止が続いていたため、今回5年ぶりの開催となりました。当日は、消防車両約50台、消防関係者約900人が街頭行進を行い、幼年消防クラブの皆さんなどによる防火パレードが行進に華を添え、子どもたちは沿道の皆さんに「火の用心」と大きな声で呼び掛けていました。

また、佐野篤工業組合による伝統の梯子乗りも行われ、高い梯子の上で次々と披露される技に観客から歓声が上がっていました。

